

第4回 期間:2006年11月~2007年10月

1. テーマ(課題)

「物を大切にし、生産することを体験する中で環境を考え実践する子どもを育てる」

平塚市立豊田小学校 鈴木 孝善

2. 課題設定のねらい(主旨)として

地球温暖化が深刻さを増す中、環境教育の重要性がますます高まっています。豊田小学校では従来から物を大切に「捨てること」を見つめなおすためのいくつかの取り組みを行っています。

落ち葉・雑草等の腐葉土化、給食残渣の堆肥化など、不要物(ゴミ)を自然循環の輪の中に組み入れ有効活用する活動や、プールへのEM活性液の投入(学校からの排水を見つめ直す)、また裏面印刷等リユースが終わった紙類・段ボール・缶・瓶・プルタブ等の分別を徹底することによる再資源化など、「焼却ゴミ」をなるべく減らす方向での活動に力を入れています。



※ 前回の助成で購入した「EM活性液培養器」でつくったEM活性液をプールに300L投入しました。たった2週間で水が透明になったのには驚きました。

同様に、水の使用についても「雨水」を利用することにより、大量のエネルギーを使う「水道水」

の使用量を減らすことができるということを体験させたいと考えています。

そして、稲・野菜・花などの生産・育成活動を通して、植物の命や自然の循環を感じることができるようと考えています。また、自分の力で身の回りの自然環境を豊かにすることができるという体験や、現在失われつつある「季節感」を自然との日常的な関わりの中で取り戻すことができるといった効果も期待しています。



※ 今年もモチ米「喜寿」の苗を全校で植えました。初めて田んぼに入る1年生にとってはワクワクドキドキの瞬間です。
もちろん2年生以上の児童は驚くほど手際よく植えていきます。

3. 実践に向けての活動メニュー

[捨てることを見つめ直す活動として]

- ・「紙の両面使用」(両面印刷・裏面印刷)
- ・「リユースBOXの活用」(色紙等)
- ・「クリップ等の活用」(使い捨て物品の不使用)
- ・「修理・修繕の徹底」
- ・「EMによる堆肥化」(給食残渣)
- ・「EMによる腐葉土づくり」(落ち葉・雑草)
- ・「資源ごみへの分別」
- ・「プールへのEM活性液投入」
- ・「教材・用具の修理修繕の徹底」
- ・「雨水タンクの設置・利用」

[環境を考えながらの生産・育成活動として]

- ・「学校田」…5年生を中心に活動（全校）
田植え → 除草 → 稲刈り → 脱穀/精米
→餅つき

米ぬかの利用 → EMボカシづくり →
給食残渣/落ち葉等の堆肥化 → 畑へ
稲わらの利用 → わら細工 → 畑へ



- ・「学校畑」…6年生を中心に活動（全校）
季節の野菜 種まき → 観察 → 収穫



- ・「草花栽培」…全校で協力して活動
パンジー等 種まき → 植替え → 水やり



4. 理科環境教育用水槽について

今回の助成金で改修（防水加工）させていただいた「理科/環境教育用水槽」ですが、ミニビオトープまたミニ田んぼとして、微小生物の観察、古代米の栽培等を計画しています。



5. 雨水タンクについて

やはり今回の助成で購入した「雨水タンク」ですが、農業者用の800Lタイプのローリータンクを利用します。水道水（大量の電気エネルギーを使用して供給される）の節水と同時に、雨水が利用できることを子どもたちに体感させたいと考えています。雨水はプランター等植物への水やりや池への給水に利用します。



6. 今後の活動について

このように豊田小学校では、自然の循環を活動に取り入れ、季節を感じ、楽しみながら活動しています。これからも、「いま自分たちができることは何か」を常に考えながら、まずはやってみようとする子どもたちと共に、日々の環境教育の実践を続けていきたいと思ひます。